

関西大学東西学術研究所研究叢刊34

異界が口を開けるとき

来訪神のコスモロジー

浜本 隆志 編著



関西大学出版部

関西大学
東西学術研究所
研究叢刊三十四

異界が口を開けるとき
来訪神のコスモロジー
浜本 隆志 編著

関西大学
出版部



9784873544892

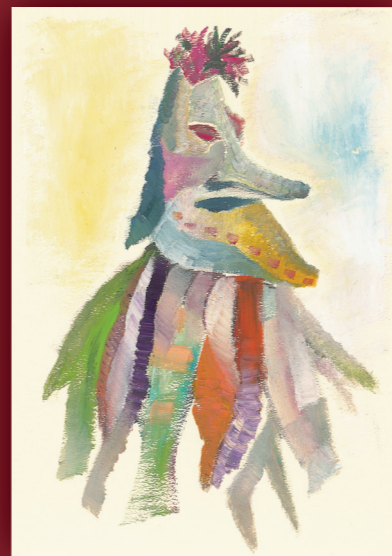


1923039033001

ISBN978-4-87354-489-2

C3039 ¥3300E

定価(本体3,300円+税)



関西大学東西学術研究所研究叢刊 34

異界が口を 開けるとき

来訪神のコスモロジー

浜本 隆志 編著

関西大学出版部



高千穂神楽の仮面



聖ニコラウス祭のクランプス



吉田神社の節分祭り（吉田神社提供）



モリオネス祭



毎年ハーメルンでおこなわれる野外劇

序 文

本書「異界が口を開けるとき 来訪神のコスモロジー」は、本研究所の「世界習俗研究班」が、平成一七年より平成二〇年度まで行った共同研究の成果である。

本書は、序章が浜本隆志研究員の「異界が口を開けるとき」、第一章は浜本研究員と大島薫研究員の共同執筆になる「日本とヨーロッパの来訪神信仰の構造」、第二章は森貴史研究員の「追儺祭における鬼」、第三章は浜本研究員の「ヴァルブルギスの夜祭り」と異界」、第四章は溝井裕一準研究員の「聖ヨハネ祭と「ハーメルンの笛吹き男伝説」、第五章は浜本研究員の「ハロウィーンの習俗と異界」、第六章は熊野建研究員の「フィリピンとイフガオの人びとにみる異界」、第七章は森研究員の「ハワイのマカヒキ祭とクックの死」、そして終章は浜本研究員の「来訪神信仰の現代的意義」によって構成されている。

本書が一貫して究明する問題について、浜本研究員が序章において指摘している。その提起されたものは次の三課題に集約できる。まず〈異界とは〉について浜本研究員は、「日常生活や現世から離れたところに存在するとされるが、これはいったいどのような世界なのか」と問題提起し、日本やアジアそしてヨーロッパの神話、民話に見られる先人たちの異界観を究明する。次に、これまで人類学の分野等で究明されてきた問題をさらに広角的に分析することを課題とした〈異界との交流儀礼〉では、原始社会からの人間が、畏怖する異界の神や霊との交流に関与するとされる動物やその代替の仮面を通して、異界の神々との交流によって形成された伝説や儀礼などを解明する。三番目の〈現代の来訪神信仰〉の課題では、日本やヨーロッパを中心に神々を迎え入れる現代の祭りの儀礼に関し

て、フィールドワークを踏まえながら来訪神信仰のデフォルメの問題が考察されている。

以上のように、本書は多角的な視点から解析され、これまでに無い極めて斬新な研究成果となった。諸賢のご批評を乞う次第である。

関西大学東西学術研究所長

松浦 章



異界が口を開けるととき 来訪神のコスモロジー

目次

口 絵

序 文…………… 関西大学東西学術研究所長 松浦 章

序 章 異界が口を開けるととき…………… 浜本隆志 I

第一章 日本とヨーロッパの来訪神信仰の構造…………… 13

浜本隆志・大島 薫

- 一 日本の神の特色…………… 13
- 二 日本の祭りとか来訪神…………… 16
- 三 日本の来訪神の可視化…………… 27
- 四 ヨーロッパの祭りの構造…………… 40
- 五 日本とヨーロッパの来訪神祭りの比較…………… 52

第二章

追儺ついなにおける鬼

森 貴史

一 鬼を祓はらう……………65

二 追儺の風習……………68

三 方相氏の怪奇な相貌……………70

四 日本の儺……………74

五 方相氏の四つ目……………81

六 方相氏の仮面……………85

七 来訪神としての方相氏……………91

第三章

ヴァルプルギスの夜祭りと異界

浜本隆志

一 ケルトの祝日とベルティネ祭……………95

二 ヴァルプルギスの夜祭りと魔女狩り……………99

三 五月祭（メーデー）……………111



第四章 聖ヨハネ祭と「ハーメルンの笛吹き男伝説」……………117

溝井裕一

- 一 「ハーメルンの笛吹き男伝説」とは……………117
- 二 中世―近世に語られた「笛吹き男伝説」……………121
- 三 「異界が口を開けるとき」―聖ヨハネ祭にまつわる風習と信仰……………138
- 四 聖ヨハネ祭―笛吹き男―悪魔……………160

第五章 ハロウィーンの習俗と異界……………173

浜本隆志

- 一 ハロウィーンのルーツ……………173
- 二 ハロウィーンと来訪神信仰……………181
- 三 ハロウィーンの伝播と変遷……………187

第六章 フィリピンとイフガオの人びとにみる異界……………193

熊野建

- 一 フィリピンの精神文化……………193

二	フィリピン社会の異界と儀礼	196
三	イフガオ社会と異界	207

第七章	ハワイのマカヒキ祭とクツクの死	225
-----	-----------------	-----

森 貴史

一	クツク殺害という事件	225
二	ケアラケケア湾での儀式 <small>イシエレシオン</small>	228
三	〈死にゆく神〉としてのロノ神	234
四	カーリイの儀式（神と王の模擬戦）	238
五	タブーと人身供犠	242
六	農耕儀礼で捧げられたクツク	245
七	ふたつの世界の神クツク	247

終章	来訪神信仰の現代的意義	255
----	-------------	-----

浜本隆志

執筆者紹介		267
-------	--	-----